

目次 (順不同)

シロオビアゲハの擬態の進化

加藤三歩

チョウの翅模様

異なる形態のメスを有するチョウ、シロオビアゲハ

シロオビアゲハのめまぐるしい適応と進化

赤色斑紋の機能

終わりに—シロオビアゲハの多様な翅模様

ヤマトシジミから迫る可塑性と進化

岩田大生・檜山充樹

温度変化が駆動する斑紋進化

シジミチョウの斑紋形成機構

チョウで遺伝的同化の研究をする意義

ヤマトシジミを例とした昆虫-植物相互作用

山口芽衣

寄主選択—好き嫌いが多く昆虫となんでも食べる昆虫

食べたい昆虫と食べられたくない植物

ヤマトシジミとその食草

植物の毒を目印にして寄主を探すスペシャリストたち

摂食と摂食刺激物質

カタバミとカタバミの防御物質—シュウ酸

毒を制する

寄主選好性と環境要因

寒い季節に現れる「冬ヤガ」の仲間とその魅力

四方圭一郎

「冬ヤガ」とは何者か

冬ヤガ採集の面白さ

冬ヤガ成虫の生活

琉球列島の冬ヤガとナワキリガ種群の分化

冬ヤガはなぜ低温期に活動するのか

公開データの利活用による寄主植物選択性の解析

小寺正明

食性の広さを表す言葉とそのデータ表現

日本のチョウの寄主植物ネットワークの概略
寄主植物選択に対する植物の影響
寄主植物中の群特異的共通化合物
チョウ寄主植物ネットワークから推定する昆虫内代謝
InsectInDB の利用方法

精子を託すオス

キタキチョウの秋に羽化する夏型オスの繁殖戦略
小長谷達郎

成虫越冬するチョウの季節多型
キタキチョウにおける季節型の混棲現象
夏型オスと秋型オスの精子競争
秋型成虫の越冬成功率と夏型オス
メスの越冬前交尾の意義と越冬成功率

飛べなくなったガ類

発生の過程で翅の退化が生じる仕組み
新津修平

翅退縮の多様性
分子系統解析から推定されたミノガ類の翅退化パターンと進化プロセス
翅退縮の発生プロセスに関わる諸概念
翅退縮を誘導するメカニズムの謎—残された課題

半自然草原とともに歩んだコヒョウモンモドキの栄枯盛衰

中濱直之

半自然草原とは？
日本国内における半自然草原の歴史
草原性チョウ類の危機的状況
遺伝情報をチョウの保全に活用する
標本 DNA を用いた過去の遺伝情報の復元
標本 DNA を用いた過去の遺伝情報の復元
遺伝解析から明らかとなったコヒョウモンモドキの集団動態とその減少要因
草原性チョウ類の保全のために

鳥の巣をすみかとする鱗翅類

那須義次

鱗翅類はどのように鳥の巣を利用しているのか
巣内共生者の適応
今後の課題

枯葉や木の枝に化けるチョウやガの擬態

隠蔽擬態と扮装擬態

鈴木誉保

隠蔽型擬態の分類

扮装擬態と捕食者の視覚認識

チョウやガの翅模様と多要素構造

擬態模様と多要素構造

隠蔽型擬態と自然選択

コノハチョウの枯葉葉脈模様の進化

ガ類における植物食の進化の源流をたどる

今田弓女

進化時計を与える鱗翅類の化石

虫食い植物化石から太古の相互作用を読み解く

初期の鱗翅類は陸上植物の進化の後を追う

最古のガ類は汎世界的に分布する

コバネガと植物との二通りの付き合い

日本列島のコバネガの暮らし

ジャゴケを食うご当地コバネガ

ニューカレドニアのコバネガは海を渡ったか

マダラチョウ類の移動と寄生回避戦略

平井規央

アサギマダラとマダラヤドリバエ

リュウキュウアサギマダラの寄生回避戦略

ほかのマダラチョウの場合

鱗翅類のフェロモンをめぐる生態と進化

中 秀司

ファーブルの行動実験—遠方から蛾が飛んでくる

コリンズとポッツ—フェロモンを「持ち運ぶ」ことに成功

ブテナントの構造決定—フェロモンは工業的に合成できる「化合物」

チャノコカクモンハマキ—フェロモンはブレンドが大事

性フェロモンと生殖隔離機構の進化

系統と性フェロモン—メス性フェロモンを持たない鱗翅類

性フェロモンも視覚も使う昼行性蛾類

フェロモンを捨てた昼行性蛾類